



MOVIE

窓の事はかり思っているような事があります。それは壁でも椅子でも同じですが、とにかく何か一つの事はかり考えている事が有ります。そんな時はとにかく窓の事は何でも思い出します。たとえばミルクホールの変形の窓、この間まで住んでいた部屋の窓“今頃はアズの花がきれいだろうな、大家さんまだアズの実を拾って歩くのかな？”そういえばいつか見た映画の中でアランドロンが隠れ家の中から見ていた窓、かっこよかった、それにパリの飾り窓、インドでは、道端でよく窓をならべて売っているなんて話しも聞いた、たぶん大きな太い棒のわけのわからない飾りの多数ついた窓ポニーとクライドのボニーが手を振っていた窓、大きな船の丸い窓、パビオンが挿えられていた半獄の窓、スパーマンが飛んでいく窓、猫がうたた寝をする窓、そう言えば渋谷に“窓”で店があった“裏窓”でゆう映画もあった。窓 窓 窓 . . . たいていこの辺で寝てしまっ、目が覚めると 窓からいっばいに朝の光がさしこんでいます。

FISHING

真鯛

先月から好漁が続いている真鯛釣りに気を良くし、F子を誘い栗山へ向った、F子は今まで3度真鯛釣りに行っているがまだ1度も釣った事もバラシタ事も無い、神子元や真鯛沖など釣り師が聞いたら感心する釣り場に因掛しているのだが、天候のせいなのかも知れない。去年の秋イナダ釣りに行った時は十数名の男達を尻目に竿頭になった事もある、その事を今もって自満に思っている様だ、さて栗山芝崎港五エム丸の午後船は定刻通り正午釣り客8名を乗せ出船した。陸では気にもならなかったのだがその日の海上は沖へ向う程に霧が濃く、釣り場に着く頃にはもう視界は30mもなくなっていた、それでも十数分後水深70mのポイントに着いた。釣り始めてから十分程もたつと左舷大ドモの釣り師が真鯛を掛けた、船頭の“バラスナヨ”の叱咤が飛び慎重なやり取りのうち上って来たのは30cm1kg程の黒ずんだ真鯛であった、その後船中ではアタリもなく数度の潮回りを繰り返してポイントを流していた、1時30分頃やっとアタリが来た、そつと聞き合わせをすと竿先が大きく海中に引き込まれる、船頭がテグサーなどを大声をハリ上げ飛んで来る、竿の反発力を利用してながらリールの糸を巻く、真鯛も命がけ、独得の強い引き込みをみせる、竿を満月に絞り込む、ユックリと糸を送り出す、竿や仕掛を限界点から早く解放しないと、無理をしているとハリスからバラシテしまうだろう、70mの海底から何度も同じ事を繰り返す、魚もだいぶ弱って来たあと、20mも巻き上げれば水面だという時、真鯛は最後の大きな引き込みをみせた、ミチ糸を送り出す一度に34cmも持つて行く、二度三度10cmも糸を出した頃、抵抗を止めた、船頭がタモを差し出す、竿を手元に置き仕掛を手でたぐる、ユックリと近づき、紅い鱗を水面にキラキラ光らせながら尾ビレを力一杯振って抵抗を見せるが、もう力は弱い、52cm 2.2kgの紅色の鮮やかな真鯛がボンヤリとした霧の白さに包まれてきた。その頃から視界も5mほどになってしまった、船頭が無線盛んに他船と連絡を取り合っているがもう限界だろう。船はスローダウンしたスピードで陸へ向う、同じ早上りをした遠船の姿は見えない、ただ波間の中に二本の軌跡だけが見えている、陸に近づくとも霧はだいぶ薄くなって来た、目の前を帰りを急ぐのか職漁船が横切っていく。残念な事にF子は今回も真鯛が釣れなかった、コンディションが悪るすぎた様だ、前回は缶コーヒーが凍る程の寒い小雪の日、前々回は4mあるウネリの中でイサキを数匹釣りながらもダウンしてしまい本命とは会えなかった、そして今回の濃霧“ツイテナイ”である。そして明日又F子と真鯛釣りに行く、昨日からの雨が今日もまだ降り続けているのだが。



ミルクホールの話 第二話

COLUMN



マリコのスケッチブックより

Milk Hall Auction End.
ミルクホールが一番苦手な梅雨のシーズンがすぐそこまで来ています。そろそろ店の自満息子カビ太郎がとでも元気になって来るのです、古い家具や昔しの雑誌、そして新しめのレコードまで、よせばよいのにカビ太郎君よく働くのです、そこで僕は毎年、押し入れの中やら屋根、物置の中まで梅雨の前に風を入れたり日に当てたりするのです。そんな時、持っけていても仕方がない様な物を見つけてののです、僕は今月そんな品々をオークションに出そうかななんて思っているのです。6月21日“土”7時からミルクホールオークションを開催します、楽しく遊んで梅雨のジメジメを吹き飛ばしましょう、ワンダリング、ワンディッシュ付参加費1500円 1人3点以上の商品を持ち寄って下さい

AUCTION



La Basische
Milk Hall Times 3rd.

今年でミルクホールを開店して10年目を迎える、開店してから4・5年の間いろいろな質問をされた、その中で“この店はいつ頃からあるのですか”とゆうのが、でも正直に答えるとガッカリする人達もいた、そんな人達は“ではこの建物は昔は何だったのですか”と切り出して来る、多分古い建物を利用して店を開いたのだと思うのかも知れない、だから答えにくい、でも考えてみればそんなイメージで店を作ったのだから、“このイスやテーブル、アンティークな品物はどうしたのですか”この質問には“買ったのです”と答える“いつどこで”と聞かれるととても困る、なぜなら一つ一つ全部違うからだ“このお店のマスターはどんな方ですか”と聞かれ正直に“ボクです”と答えるとイヤな顔をされる人もいた、多分もっと年をとった人を想像したのかも知れない、去年テレビの朝番組の取材で某女優がレポーターとして来店した、案内を鎌倉のある人力車夫氏が受け持つ、そんな話のなかで当店を明治の建物を改造したと説明していた、これはあまりにメチャクチャな話でいささか腹が立った、帰り際その部分のカットを要求し案内氏に文句をいった、しかしそのまま放映されてしまった様だ。今は10年前に開店したと答えても、それなりに納得する月日が経った、そして此所は昔住居及び勉強塾だったので、それをマスターと友人達と一階を全面改装して作ったお店なのです、そして当時骨董屋を経営していた頃に京都附近で買い集めた商品の幾つかを飾ってあるのです、マスター36才 “私がマスターです”と答えても今は納得される事が多くなった様です

Gurnny's Collection OPEN!

アンティークス&モダン ガーニイズコレクションが、稲村ヶ崎海岸通りにオープン致しました。名前の由来はミルクホールの愛犬“ガーニィ”の宝物”といった様な意味です。インテリアデザインというのが本来の役割です。気に入った物を集めたり創ったり、毎日海を眺めながら、色々の人達と話し、協力を得ながら、独自の視点で色々な物を企画し、組み立て、製作していく。そんな手段や方法を持つデザインファクトリーです。現在進行中の業務は、飲食店の企画、デザイン、設計、住宅の改造、そしてミルクホールタイムスの編集発行などです。一度お立ち寄り下さい
☆鎌倉市稲村ヶ崎1-15-9 TEL 0467-22-4783